

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第七期第4回豊島区生涯学習推進協議会
事務局（担当課）		文化商工部学習・スポーツ課
開催日時		令和6年3月21日（木） 午後6時30分～8時
開催場所		庁舎807会議室
議 題		1. 開会 2. 経過説明 3. ビジョンの評価のまとめについて 4. 今後の進め方について 5. 閉会
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	高井正（会長）、中上亜樹（副会長）、齋藤知明、有島由希子、荘司哲夫、大高信、大澤友美、白根由貴、鈴木晴美
	そ の 他	
	事 務 局	文化商工部長、学習・スポーツ課長、 学習担当係長（生涯学習）兼社会教育主事、生涯学習指導員

審 議 経 過

No. 1

1. 開会

2 経過説明 について

(事務局)

資料 No. 4－1 「第7期豊島区生涯学習推進協議会 これまでの議論の流れ」を事務局より説明

(会長)

今の説明についての質問はありますか。

質問はないようですね。ありがとうございました。

3 ビジョンの評価のまとめについて

資料 No. 4－2 「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」について説明。

(会長)

冒頭には、地方自治体における評価の基本を記載した。課題である生涯学習の評価については、学びによりその後の考え方や行動の変化を質的評価として測ることをめざし、としまコミュニティ大学で学び続けるマナビト生にインタビューを行った。インタビューを通して、質的評価を行う際の9つの視点をあげてみた。

今後の課題としては、丁寧な見直し、担当者が変わっても同じ評価ができる仕組み作りが必要である。

(委員)

学習の効果を評価するのは難しく、どのように可視化するのかで、3人の学習を継続している方にインタビューをした結果、9つの視点が出た。この視点をどう生かしていくかが大事。

(委員)

評価はやるべき時期があること、振り返りシートで段階的に書くこと、言葉では変わらなくても行動が変わっていくことがあることが考えられた。

(会長)

資料 No. 4－2 「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」は答申するものではないので、報告のたたき台として、各委員からの意見をお聞きしたい。

(委員)

「つどう」「つながる」「つくりだす」に焦点を当てた評価とするのには、目標とした

それぞれの場面で実現できたかどうかであり、質問もそれぞれのパターンに基づいて質問をした方がいいのではないか。

また、事前の評価、学習の指導過程において学習の達成度を評価する形成的評価、学習者の最終的な学習到達度を判断する総括的評価の3つの評価、追跡の評価などの評価が積み重なるといい。

(会長)

ひとりひとりの変化や変容が評価の重点であり、それが社会教育である。

「つどう」「つながる」「つくりだす」については、個人の変容と合わせてどう評価していくのかは考えていく必要がある。

(委員)

エリアガイドの養成講座の評価は、グループが形成された後にどのような支援などを、グループに同じ内容、同じ時期で聞いていくことが必要となる。

学ぶ場の提供をしている自主グループについては、学びによる人の変化を見ていくのは、エリアガイドの養成講座とはかなり違ってくる。目標は何か、どんなステージに持っていけばよいのか。

(会長)

事業の目的によって、また、主催者がどこに重きをおくにかによって目標は決まってくるのでは。

(委員)

アンケートは満足度に偏りがちだが、参加者がどんなことを体験し、変化したかをアンケートで聞いている。アウトカムについても聞いている。聞く項目について標準化できるものが見つかるのではないか。

(委員)

目標を持ってやったか、学んだことを生かす場があるのかなど生涯学習の成果は、直ぐには生かせないものもあるが、エビデンスを積み重ねて次につなげていくことも大事かと思う。

(委員)

具体的に評価するのはとても難しいことだが、文字で可視化されたことがすごいこと。形になった評価について、これからうまく利用して繋げていければいい。

(会長)

「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」

（資料 No. 4－2）について、意見を踏まえて修正できるところ、評価をやっていく上でこうしたらもっと良くなる、という考えがあればお聞かせ願いたい。

(委員)

今後の参考として聞きたい。対面でインタビューをして聞き取ったのはなぜか。

二次元コードを使っでの講座の申し込みやアンケートについても聞きたい。

(委員)

アンケートについては、屋外での講座やイベントは二次元コードでの回答とし、屋内では紙で回答としている。若い年代では二次元コードの回収率が高い。

(委員)

大学も紙は激減した。マークシートでも回答のための時間は取らないといけない。

(会長)

大学での授業アンケートはマークシートではあるが、毎回の授業においてはコメントを書いてもらい、次回の授業の冒頭のふり返りに活用している。繰り返すことで、学生は書く量も内容も変化していく。

(委員)

「学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」は、今回の報告書として形になれば、とても分かりやすい。アンケートの虎の巻にもなる。アンケートのアレンジ次第では、よりよい評価につながる。アンケートのたたき台ができるとアンケート項目も活きてくる。

(委員)

次回の生涯学習ビジョンの策定で、どのような形で生かすのかも課題となる。

4. 今後の進め方について

(会長)

- ・ 現行のビジョンは、事務局の考え方を踏まえ、事業をぶらさげないものとして作成した。その結果として、評価しにくいものとなることは当然のこと。今期の取り組みとしては、学びによる人の変化を質的に評価することを目指した。

次期は、ねらいの設定。出た意見は次期への課題とする。

- ・ 「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」は、表現などの修正があれば、早めにお知らせいただきたい。大きな修正箇所があれば、次期の課題としたい。

(会長)

今期は難しい課題に取り組んできた。本日をもって、第七期生涯学習推進協議会を終了します。

皆さまありがとうございました。

会 議 の 結 果	・「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」について内容を検討したところ、変更箇所はなかった。 ・学びのよる人の変化を、質的評価として見てみた。「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」での評価の視点をもとに、来年度の事業の中でアンケートとして実施してみる。
提出された資料等	資料 No. 4－1 「第 7 期豊島区生涯学習推進協議会 これまでの議論の流れ」 資料 No. 4－2 「生涯学習事業に求められる質的評価を測る視点についての報告（案）」